

地質ニュース

昭和43年6月

第166号

1968

北海道支所創立20周年記念特集

地質調査所北海道支所創立20周年に際して 佐藤光之助・1
北海道支所創立20周年を迎えて 斎藤正雄・2

第I部 北海道の地質調査事業はどのように進められたか.....	3
本道地質調査事業のあゆみ	佐藤博之・3
鉱物調査をかえりみて	斎藤正雄・3
鉱物調査をかえりみて	植村癸巳男・9
北海道地質調査の思い出(座談会).....	11
第II部 北海道の地質調査研究の現状	16
青函海底トンネルの建設と地球化学のアプローチ	原口謙策・16
海底地質への道	室住正世・16
写真地質の役わりとその技術開発	坊城俊厚・26
期待される北海道の地熱	松野久也・31
北海道の防災課題と私たちのとりくみ	中村久由・34
われわれの生活と平野の地質	星野寔・37
潜頭鉱床探査の時代を迎えて	大島和雄・40
北海道で燐灰ウラン鉱が発見されるまで	番場猛夫ほか・43
北海道の熱水性非金属鉱床の2, 3について	番場猛夫ほか・47
石炭地質学の進歩	成田英吉ほか・49
北海道の油田への期待と可能性	曾我部正敏ほか・52
北海道における物理探査の足跡	長尾捨一・57
北海道の地質はどのように解明されているか	瀬谷清・60
北海道の地質はどのように解明されているか	佐藤博之・64

編集 地質調査所

表紙の写真

発行 株式会社 実業公報社

アジアではじめて発見された「Viridine quartz schist」
1955年の夏であった北海道日高山脈の西麓チロロ川から紅簾片岩によく似た岩石が採集されたが、その中にエメラルドグリーン〜ゴールドの多色性を示すきわめて美しい鉱物が、紅簾石、白雲母、石英と共存していた。採集者 番場は鈴木醇先生にこの美しい岩石をみてもらった。先生はこの岩石にひじょうな興味をもたれ、それから10年もの長い間、地質調査所の元所員であられた磯野清氏、鈴木淑夫氏や現所員の伊藤聡氏の協力で、いろいろ実験され、この緑の鉱物が世界に稀な Viridine (マンガン紅柱石)であることを明らかにされ、世界で第8番目の発見を "Proceedings of the Japan Academy, vol. 41, no.8, 1965" に公表された。顕微鏡写真は ×80
(解説 番場猛夫技官 撮影 正井義郎技官)